

## 第6学年3組 道徳学習指導案（道徳六名単元）

### 1. 単元名 今ある命を大切に

#### 2. 構 想

##### （1）子供の実態とねらい

終戦から60年以上が過ぎ、学校には、戦争を経験した教員はいなくなり、子供たちも戦争の実体験をもとにした話を聞く機会はほとんどなくなってきているし、今後も少なくなっていくことは明らかである。しかし、世界の各地で未だに戦争が続けられ、毎日多くの罪のない人たちの命が失われている事実がある。さらには、凶悪事件の低年齢化が進み、昨年の岡崎でのホームレス殺傷事件など、命を粗末に扱うような事件が子供たちの身近で起きようになってきている。

これまで子供たちは、中学年でのウサギの飼育当番や、5年生でのメダカの観察などで、生き物の命の大切さを学んだり、一生懸命に世話した甲斐もなく、その命が失われていくことを目の当たりにしたりする経験はしている。6年生になって歴史の学習が始まり、権力や領土の争いで互いの命を奪い合うことを学習してきたが、「過去の歴史の一事実」としてとらえているに過ぎない。また一方では、テレビゲームで殴り合ったり、殺し合ったりするゲームをして楽しんでいる子供がいるという現状もある。そんな子供たちに「さとうきび畑」という曲との出会いを通して、命の尊さについて考える機会を設けたいと思い、本主題を設定した。

##### （2）体験活動との響き合いについて

経験のない「戦争」を少しでも実感できるようにするために、多角的に「戦争」をとらえられるようにしたい。まず、運動会学習を通して、沖縄戦についての学習をする。また、国語科「ヒロシマのうた」、社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」で、太平洋戦争時の人々の暮らしや、心情について、理解を深めたい。そして、ドラマ「さとうきび畑の唄」を視聴することで、歌詞に登場する人物の心情をより深く考えるための手立てとしたい。

歌詞だけでは、大切な命が奪われていく悲しみを実感することは難しいと考える。道徳の時間で、「さとうきび畑」の登場人物の心情を考えると、それまでに学習した内容と、道徳の時間との響き合いにつながり、命の大切さをより強く実感できるものと考えている。

### 3. 学習計画（5月～10月）

本文中に示したとおり

#### 4. 本時の学習指導

##### （1）ねらい

「さとうきび畑」の歌詞に登場する人物の気持ちを考えることにより、一つの命が失われることで、多くの人が悲しむことに気づく。

命が失われることの悲しさを理解し、自他の生命を大切にしようとする心情を高める。

##### （2）資料「さとうきび畑」について

3-(2) 生命の尊重 出典 「さとうきび畑」二見書房、CD「さとうきび畑」(作詞・作曲 寺島尚彦 歌 森山良子 ドリームミュージック社)

本資料「さとうきび畑」は、寺島尚彦作詞・作曲の曲で、日本で唯一行われた地上戦を舞台に、わが子の姿を見ることなく命を落としてしまう父親と、その家族の歌で、さとうきび畑の美しい情景と、戦争の悲惨さを同時に描いた心打つ曲である。1967年に発表されたものであるが、森山良子をはじめ、多くの歌手に歌い継がれている。「さとうきび畑」では、あえて「戦争」を前面に押し出すのではなく、まだ見ぬ父の姿を追う主人公の気持ちに焦点を当て、ひとつの命が失われることで、多くの人が傷つき、多くの悲しみが生まれ

ることに気づかせることで、命の大切さを考えさせたい。

(3) 指導方法の工夫

4人の保護者に、子供の中に入って一緒に考える、「保護者参加型」の形態で授業を行う。歌詞の中には、「父」「母」などの大人も登場する。そこで、子供たちとは違う立場の視点から、意見を言ってもらうことで、新たな視点を与え、子供の思考をより深める手立てとしたい。

「きづく」場面では、ドラマ「さとうきび畑の唄」の冒頭部分を見せ、ドラマの内容を思い出させるのと同じ時に、歌詞の内容にスムーズに入っていけるようにする。資料提示は、絵本「さとうきび畑」を拡大したものを使う。沖縄のきれいな風景と、沖縄戦の悲惨さとのギャップが演出できればと思う。

「ふかめる」場面では、ドラマの最初と最後に登場する、現代の生活で、自暴自棄になっている女子高生に、メッセージを書くという活動を取り入れる。そうすることで、戦争の時代から、現代の自分たちの生活に、目を向けさせることができると考えたからである。

(4) 展開

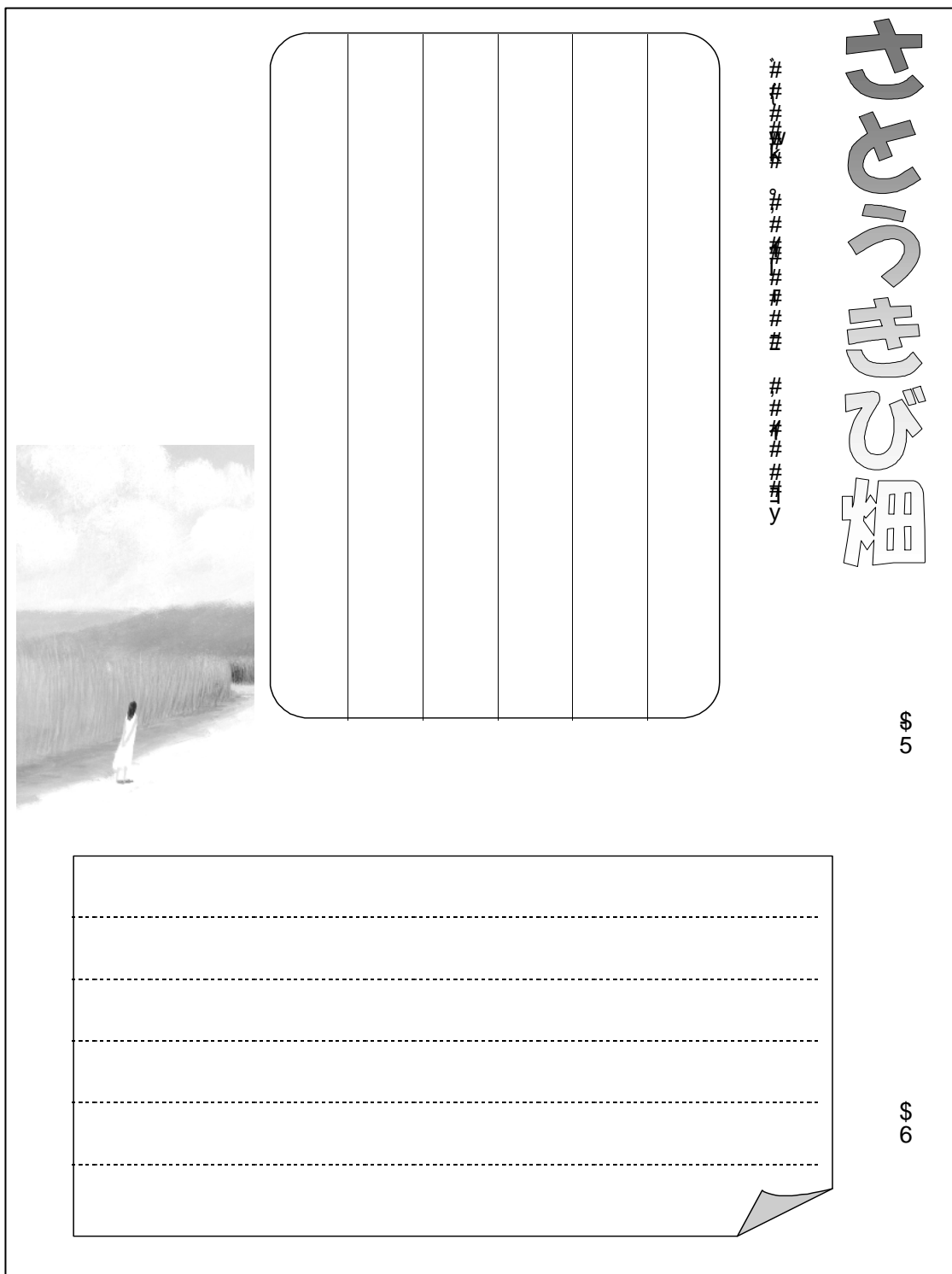
段階	児童の活動と教師支援	
き づ く (5)	1. 「さとうきび畑の唄」のビデオを一部視聴し、物語の内容を思い出す。 ・戦争は人を不幸にする。 ・お父さんを亡くした家族の悲しみがよく分かった。	ドラマの内容を思い出させるために、ビデオを放映する。 2, 3名の児童の感想を紹介する。 保護者にも簡単に感想を言ってもらう。
ふ か め る (30)	2. 「さとうきび畑」の歌詞を聞き、登場人物の気持ちについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">父の声を探しながら、畑の道をたどる「私」はどんな気持ちなのでしょう</div> ・お父さんはどんな人なんでしょう。 ・お父さんに会ってみたい。 ・お父さんが生きていたらどんなに幸せだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">消えない「この悲しみ」とは、どんな悲しみでしょう。(響き合い1)</div> <私の悲しみ> ・お父さんの命を奪われた悲しみ。 ・お父さんに会えない悲しみ。 ・お父さんを返してほしいという気持ち。 <父の悲しみ> ・自分の子供に会えない悲しみ。 ・自分が殺されることの悲しみ。 <家族の悲しみ> ・大切な人がいない悲しみ。 <多くの人の悲しみ> ・戦争で命が奪われることの悲しみ。 ・罪のない命がたくさん奪われることの悲しみ。	絵本を拡大した映像を見せながら、歌詞を朗読する。 場面絵を貼付して、状況把握を支援する。 状況に応じて、戦争の悲惨さよりも、家族の命が奪われていることの悲しさに目が向くよう 自分の考えを明確にするために、ワークシートに考えを記入させる。 <b>座席表に児童の考えを記入し、話し合いを深める手立てにする。</b> 参加した保護者には、子供の意見を受けながら、悲しみを抱えているのは「私」だけではないことを気づかせるような発言をしてもらう。(響き合い3) 一つの命が奪われることで、多くの悲しみが生まれることが、視覚的にとらえられるように工夫して板書する。
あ た た め る (10)	3. 現代の社会の中で、命が粗末に扱われていたり、逆に命が大切に扱われていたりすることを考え、発表する。 ・ホームレス襲撃事件 ・世界各地での戦争 ・中越沖地震での救助活動 4. ドラマの登場人物(上戸綾)にメッセージを書く。	参加した保護者には、命が大切に扱われている例を発表してもらおう。(響き合い3) 命の大切さを訴えるために、たくさんの歌手が「さとうきび畑」を歌っていることを紹介する。これまでの学習全体を通してメッセージを考えてもよいことを補説する。

(5) 評価

登場人物の心情を考えることにより、「さとうきび畑」の歌詞には、色々な立場の人のたくさんの悲しみが込められていることに、気づくことができたか。(活動2発言、ワークシートの記録から)

命が失われることの悲しさから、命の尊さに気づき、自他の生命を大切にしていこうとする心情を高めることができたか。(活動3の発言やワークシートの感想、今後の生活の様子から)

(6) ワークシート



さとうきび畑

5

6

さとうきび畑 作詞/作曲 寺島尚彦

1. ざわわ ざわわ ざわわ  
広いさとうきび畑は  
ざわわ ざわわ ざわわ  
風が通りぬけるだけ  
今日もみわたすかぎりに  
緑の波がうねる  
夏の陽ざしの中で
2. ざわわ ざわわ ざわわ  
広いさとうきび畑は  
ざわわ ざわわ ざわわ  
風が通りぬけるだけ  
むかし海の向こうから  
いくさがやってきた  
夏の陽ざしの中で
3. ざわわ ざわわ ざわわ  
広いさとうきび畑は  
ざわわ ざわわ ざわわ  
風が通りぬけるだけ  
あの日鉄の雨にうたれ  
父は死んでいった  
夏の陽ざしの中で
4. ざわわ ざわわ ざわわ  
広いさとうきび畑は  
ざわわ ざわわ ざわわ  
風が通りぬけるだけ  
そして私の生まれた日に  
いくさの終わりがきた  
夏の陽ざしの中で
5. ざわわ ざわわ ざわわ  
広いさとうきび畑は  
ざわわ ざわわ ざわわ  
風が通りぬけるだけ  
風の音にとぎれて消える  
母の子守の唄  
夏の陽ざしの中で
6. ざわわ ざわわ ざわわ  
広いさとうきび畑は  
ざわわ ざわわ ざわわ
7. ざわわ ざわわ ざわわ  
広いさとうきび畑は  
ざわわ ざわわ ざわわ  
風が通りぬけるだけ  
父の声をさがしながら  
たどる畑の道  
夏の陽ざしの中で
8. ざわわ ざわわ ざわわ  
広いさとうきび畑は  
ざわわ ざわわ ざわわ  
風が通りぬけるだけ  
お父さんて呼んでみたい  
お父さんどこにいるの  
このまま緑の波に  
おぼれてしまいそう  
夏の陽ざしの中で
9. ざわわ ざわわ ざわわ  
けれどさとうきび畑は  
ざわわ ざわわ ざわわ  
風が通りぬけるだけ  
今日もみわたすかぎりに  
緑の波がうねる  
夏の陽ざしの中で
10. ざわわ ざわわ ざわわ  
忘れられない悲しみが  
ざわわ ざわわ ざわわ  
波のように押し寄せる  
風よ悲しみの歌を  
海に返してほしい  
夏の陽ざしの中で
11. ざわわ ざわわ ざわわ  
風に涙は かわいても  
ざわわ ざわわ ざわわ  
この悲しみは 消えない